



男女共同参画とワークライフバランスの一層の推進に向けて

理事(ワークライフバランス担当) 宮井 千恵

教職員の皆様には、日頃より、男女共同参画推進の取り組みに、ご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。

昨年1月に、日本での新型コロナウイルス感染が確認されてから1年余りが過ぎましたが、今なお、収束の見通しが立たない状況にあります。この間、感染拡大防止のため、働き方や学び方、さらには生活の仕方まで大きな転換と忍耐が求められてきました。この、未曾有の危機が一日も早く収束し、静かな日常に戻ることを強く願っております。

さて、男女共同参画推進室では、平成30年度に実施しました「働き方と生活に関するアンケート」の調査結果を受けて、令和元年11月から12月にかけて各部局へのヒアリングをさせていただきました。その中から部局共通の課題であります、「労働時間や研究時間の改善に関すること、会議や委員会の負担軽減に関すること、有給休暇・振替休日の取得の推進に関すること、男性の育児休業取得を支援する体制に関すること」の取り組みと、コロナ禍による影響などについて、各部局からご報告をいただき、現在、結果をとりまとめているところです。各部局の皆様には、何かと業務が増大する中で調査等にご協力をいただきありがとうございました。

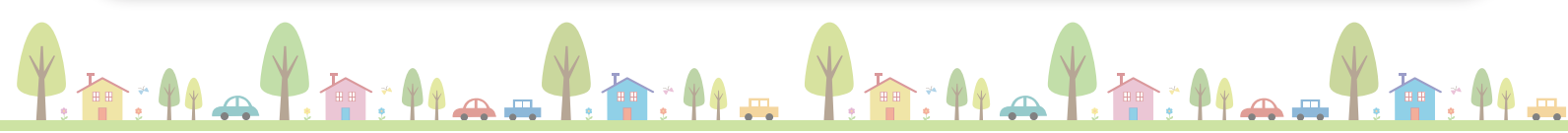
コロナ禍により、テレワークや外出自粛により、自宅で過ごす時間が増加し、家事や育児について男性の従事する時間が増加しているのではないかと期待をしております。ちなみに、前述のアンケート調査では、本学の家事・育児時間は、就業日では、いずれも女性が3時間余り、男性が1時間余りと女性が男性の約3倍という結果でした。

男性の育児休暇取得については、厚生労働省「令和元年度雇用均等基本調査」によりますと2019年度の日本の男性の育児休業取得率は7.48%であり、2020年度の目標13%も達成できない見込みです。そして、男性が育児休業を利用しなかった理由を調べると「会社で制度が整備されていなかったから」「取得しづらい雰囲気だったから」といった割合が高いという結果が報告されており、職場の環境整備や風土醸成が重要であることがわかります。

本学の男性の育児休業取得者数についてみてみますと、毎年1~2名の取得でしたが、2020年度は8名と増加しており、くるみん認定の基準の一つである男性の育児休業取得率7%以上を満たしています。

本学の男女共同参画とワークライフバランスは徐々に浸透してきていると感じていますが、一層推進していくには、組織の仕組みを変えることと同時に、職員の皆様ご理解し行動して下さること、そして、一人ひとりが相手を大切に思う気持ちが重要です。その結果として、時間外勤務の短縮、休暇の取得、男性の育児休業の取得などが進んでいくものと確信しております。

男女共同参画推進室も、職員の皆様の仕事と生活の充実が図られ、やりがいや幸せを感じることができるよう取り組んでまいりますので、これからもご協力をお願いいたします。





令和2年度高知大学女性研究者奨励賞受賞者が決まりました



受賞者：橋田裕美子助教 医療学系基礎医学部門

令和3年2月9日に、高知大学女性研究者奨励賞の授賞式が開催されました。この賞は優れた研究を展開している女性研究者を表彰することにより、女性の研究意欲及び挑戦力を高め、未来を牽引する研究の促進を図るとともに、女性研究者の活躍の場を広げ、女性研究者にとって魅力的な大学とすることを目的とします。橋田助教は、ヒトポリオーマウイルスの生態および病原性について研究活動を行ない、令和元年に日本感染症学会「感染症優秀論文賞」を受賞しました。この賞は感染症領域において、優れた研究の英文原著論文を発表した研究者に贈られます。

橋田助教の論文「Genetic variability of the noncoding control region of cutaneous Merkel cell polyomavirus: Identification of geographically related genotypes」は、人の皮膚に常在するメルケル細胞ポリオーマウイルスの遺伝子には日本人特有の塩基配列があることを突き止めたもので、米国感染症学会の学術誌「Journal of Infectious Diseases (217: 1601-1611, 2018)」に掲載されました。



ダイバーシティ推進共同研究表彰制度受賞者が決まりました



受賞者：都留英美助教 医療学系基礎医学部門

令和3年1月28日、「ダイバーシティ推進共同研究表彰制度」の授賞式が開催されました。研究課題名は『コンプレキシンによる抗体分泌制御が全身性エリテマトーデスの病態進行抑制に果たす役割』（採択年度：2018～2020年度）です。この表彰制度は文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」で実施する「ダイバーシティ推進共同研究プロジェクト」で優れた功績を残された代表研究者に同制度の責任者である徳島大学長が授与するものです。授賞式では、宮井千恵 理事（ワークライフバランス担当）より表彰状が手交されました。都留先生はご自身の研究に加え、本事業のシンポジウムのパネリストを務めたほか、様々なイベントにおいて研究とライフイベントの両立の経験についてもお話しくださしました。



ロールモデル講演会



令和2年7月20日に塩崎直子氏をお招きし、「ロールモデル講演会」「キャリア形成と国際ボランティア：助産師の経験から」をオンデマンド配信で実施しました。塩崎さんは助産師として、専門学校や大学で後進の育成に携わるほか、シニア海外協力隊としてエクアドルの助産師育成の活動を2年間勤め、そして、令和2年には同じく助産師育成の活動でタンザニアに派遣される予定とのことでした。まさに世界を股にかけた仕事をしている塩崎さんですが、大学を中退してからの助産師への歩み、初めてのスペイン語での仕事、異文化での暮らし、そして大学院での学び直しの経験についてのお話から、キャリアについての考え方や行動の原動力をうかがい知ることができました。参加者からは、たくさんの質問やメッセージが寄せられましたが、塩崎さんは後日その質問に一つ一つ丁寧に答えながら、応援のメッセージを贈られました。



ロールモデル講演会「生きて死んでゆく私たち～その間に私・あなたは何をしたいか」

令和3年1月12日にロールモデル講演会をオンライン開催し、62人が参加しました。参加者アンケートでは全員から「とてもよかった」・「よかった」という回答があり、たいへん満足度の高いセミナーでした。オンラインを利用したアメリカの大学教員による講演であったことから、日米の死生観の相違について学ぶことができ、さらに両者に共通する倫理的な考え方について考えさせられるセミナーでした。



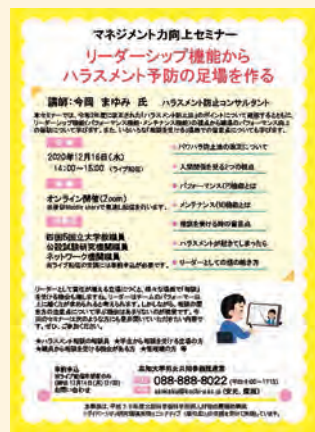
講師の奥野（中野）満里子先生は、Assistant Professor (Bioethics), The University of Alabama at Birmingham School of Medicine、アラバマ州ゲノム健康プロジェクト生命倫理部門長、UAB プレシジョン・メディスン研究所倫理顧問を務めています。

新型コロナ禍では、生命倫理の研究者として、集中治療・人工呼吸器・ECMO・ワクチンなどの選別は許されるのか、ほかの診療・治療を犠牲にしても新型コロナ治療を優先すべきかといった、生と死をめぐる私たちの価値観の問題を扱っています。日米では文化も歴史的背景も、宗教観や価値観も違う中で、安楽死と死の補助に関する日米の事例をご紹介いただきました。

マネジメントセミナー



令和2年12月16日に『マネジメントセミナー』「リーダーシップ機能からハラスメント予防の足場を作る」をオンラインで開催しました。リーダーとして責任ある立場に就くと、様々な場面において人からの「相談」を受ける機会が増えます。しかしながら、相談の聞き方、注意点を学ぶ機会があまりないというのが実情です。今回のセミナーでは、講師にハラスメント防止コンサルタントの今岡まゆみさんをお迎えし、今年改正された「ハラスメント防止法」のポイントについて確認し、リーダーシップ機能を踏まえた『いろいろな場面で想定される「相談」を受ける際の留意点』について学びました。セミナー中に Zoom のチャット機能を使って、講師に質問やメッセージを送ることができるため、参加者からも多くの質問やコメントが寄せられました。在宅勤務でオンラインのコミュニケーションが引き起こすハラスメントも増えているとのこと。メールやチャットでのマナーや言葉遣いをよく考えて送信することが大切です。



英語論文セミナー



令和2年12月16日、令和3年1月27日の2回にわたり『英語論文書き方セミナー』をオンライン開催しました。講師には国際誌での査読経験も豊富な高崎健康福祉大学保健医療学部の富田洋介氏（株式会社カクタスコミュニケーション）をお迎えし、それぞれ① How to write an effective abstract and cover letter, ② Literature Review: Citation & Plagiarism をテーマにお話しいただきました。オンライン開催ということで、高知大学の研究者・学生はもとより、徳島大学、愛媛大学、香川大学、鳴門教育大学からもたくさんの方に参加いただきました。セミナー中に参加者がチャットで質問し、講師がそれに答えるかたちで質疑応答をしました。今回のセミナーは遠隔地を結ぶ形で実施しているため、技術的なトラブルも想定されることから、ライブでのセミナーの他「見逃し配信」を提供しました。総合プロデュースを担当した株式会社カクタスコミュニケーションによると、オンラインの技術サポートは海外拠点から行っていることを聞き、新しいセミナーの可能性も感じました。





■第13回ワーク・ライフ・バランス講座「今すぐ実践!男性の育児休業」

厚生労働省イクメンプロジェクト提供研修動画「今すぐ実践!男性の育児休業」による「ワーク・ライフ・バランス講座」を高知大学 moodle share「男女共同参画推進室セミナー」にて実施しています。利用者アンケートでは、全員から「分かりやすかった」、「育児休業が取得できる職場環境を考えるうえでとても役に立った」という回答を得ました。

育児休業を取得できる環境を整備することによって、職場の雰囲気が変わる、業務の属人化を排除、仕事の効率性アップ、人材不足解消に効果大、離職率が低下、など職場は多くのメリットを得られます。研修動画で紹介されている「イクボス10の実践」を行うことで、会議のムダを省き、業務分担の適正化、スケジュール共有化、仕事効率化の共有、労働時間の適正管理により業務改善を行うことができます。moodle share から視聴できますので、いつでもご都合の良いときにご利用ください。



■第14回ワーク・ライフ・バランス講座「仕事と介護の両立」研修動画

男女共同参画支援ステーションでは、「仕事と介護を両立させる秘訣」研修動画による「ワーク・ライフ・バランス講座」を開催しました。この研修動画では、仕事と介護の両立の心構えや介護の基礎知識、介護保険サービスの利用法、別居介護・遠距離介護を成功させる秘訣について、角田とよ子講師（株式会社 wiwiw キャリアと介護の両立支援室長）による豊富な体験談をもとに学ぶことができました。



■「外部資金獲得」研修動画

高知大学では「外部資金獲得のための動画講座2020」の配信を行い、40名が利用しました。利用者アンケートでは、全員から「とても役に立った」、「どちらかといえば役に立った」という回答を得ました。申請書の構築や競争力のある科研費申請書の作成、個々の科研費申請書の作成について研修動画を通じて学習し、科研費申請に役立てました。



■「女性活躍の推進を通じて学ぶダイバーシティ」e-ラーニング

男女共同参画推進室では、「女性活躍推進セミナー」として e-ラーニングを実施しました。利用者アンケートでは、全員から「分かりやすかった」、「役に立った」という回答を得ました。e-ラーニングでは、ダイバーシティの定義、取り組みへの背景を通して、女性活躍の必要性を学びました。管理職、女性職員、男性職員、それぞれの視点で学習することにより、職場でのコミュニケーションの取り方を見直すきっかけをつくりました。女性職員の視点からは、仕事と育児の両立やリーダーというチャンスへのチャレンジ、これからのキャリア形成を考えました。さらに管理職の視点からは、育児休業から復職した女性への対応を学ぶことができました。

